

7月6日（月）

◆木之本漆器店

手鏡やお皿など自分の好きなものを選んで絵を描き、色粉を蒔いた。皆、熱心に取り組み、作品の出来栄には満足そうだった。



◆あべ食堂

喜多方を代表する老舗店を訪問。
皆、喜多方ラーメンを楽しみにしていた
様子で、麺をほおばっていた。



◆鶴ヶ城

ボランティアガイドさんの説明（英語）にて城内を視察。会津の歴史に耳を傾け、熱心に質問をしていた。また、会津藩士の出迎えに大喜びだった。



◆会津学鳳中学校

会津学鳳中学校では最初に校舎を見学した。3年生の代表者 6 名から普段の学校生活や校舎内の教室等について英語で説明を受けた。

その後、なぎなた部の部活動に参加した。皆、初めてのはかま姿に大喜びだった。なぎなた部の生徒は英語と日本語両方で身振り手振り一生懸命指導し、研修生は短時間にもかかわらず、所作や動きをマスターすることができた。



校舎案内



まずは服装から



なぎなた体験

7月7日（火）

◆御薬園（お点前体験）

御薬園では、ボランティアガイドさんに日本庭園や薬用植物園を英語で案内してもらった。その後、御茶屋御殿で茶道を体験した。説明を受けながら、一人ずつ茶筌でお茶を点てた。研修生は足のしびれに耐えながら正座で臨み、抹茶と和菓子をいただいた。



お点前体験

◆會空

大熊町から会津若松市へ避難している女性たちが、会津地方の伝統工芸品である会津木綿を使って立ち上げたブランド『會空』の作業場を訪問し、取り組みについて理解を深めた。



くまのぬいぐるみ『あいくー』

◆末廣酒造嘉永蔵

県を代表する酒蔵のひとつである末廣酒造嘉永蔵を訪問した。研修生は日本酒づくりについて説明を受け理解を深めた。



日本酒づくりの説明



昔の主人の住まいを見学

◆満田屋

味噌田楽の店『満田屋』を訪問。会津地方の郷土料理を堪能した。



◆県との懇談会

今回の研修のとして県との懇談会を実施。「海外から見た福島、実際に見た福島」と「帰国後における研修の活用」の2つの議題について懇談を行った。



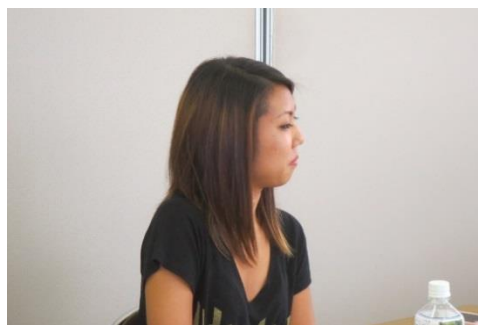
① ジャネッサ アロハラニ カネシロ（ホノルル福島県人会）

・福島に来る前は震災の事以外についてあまり知らなかったです。親戚が福島からハワイに移住した事や田舎のイメージ位で、もっと農地があるのかなと思っていました。

・来日する前は放射能の事も心配だったのですが、実際に福島に来て放射能からの被害をほとんど受けていないと言う

事、復興も進んでいたし、復興のあゆみについても学ぶ事が出来ました。

・ハワイに帰ったらこのプログラムで学んだ事を福島県人会や家族、友人にも伝えたいと思っています。



② シドニー ケイコ スズキ（ホノルル福島県人会）

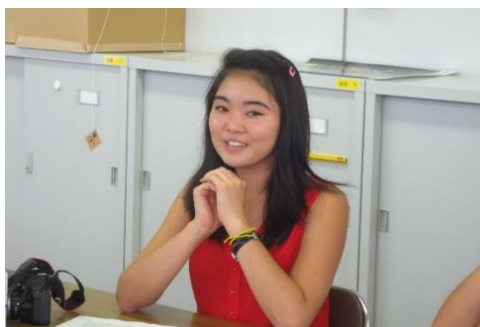
・このプログラムに参加する前は福島に関して何も知らなかったです。自分のルーツが福島だという事もつい最近数カ月前に知りました。

・津波や地震に関してはほぼ何もわかっていなかったのですが、放射能についての話は聞いていたので、被ばくについては心配していました。

・私の家族は、食べ物の安全性についてよく考えて食べているので、放射性物質が含まれているのではないのか？と思い、私が福島県産の食品を食べることを心配していたと思います。

・このプログラムに参加してみて、福島県は別に何も、特に食べ物に関しては心配する事は無く、全てが復興に向かってうまくいっているように思います。

・ハワイに帰ったら両親に福島の食べ物は安全だと伝えたいです。学校の日本語の授業で、福島で学んだ事について発表する事になっているので、福島の写真等を他の学生に見せて、福島はこんなに良い所で安全だと言う事と、ぜひ機会があったら行って見て！と伝えたいと思います。



③ ノエラニ アン カネシロ（ホノルル福島県人会）

・私も福島についてそんなに詳しくはなかったです。来日する前は、建物等が壊れていて、ひびが入ってダメージを受けている状態や、放射能のせいで見学出来る所も限られているのではないかというイメージを持っていました。

・除染情報プラザに行った時に、県は放射能に対してどのような対応をしているのかという話を聞いて、すごく早く復興が進んでいるという印象を受けました。

・実際福島に来てみたら、建物の被害もなく、放射能も特に問題がなかったので、印象としてはとても綺麗な所で、県内の色々な場所を訪れる機会をいただき本当に嬉しく思います。

・帰ったらまず、家族や友人に放射能は特に大きな問題が無いという事と、復興が進んでいるという事を伝えたいと思います。福島に来る前には、例えば放射能があるのだからマスクを着用する必要があるのではとかいろいろ言われたのですが、特にそういう問題は無いという事を伝えたいと思います。



④ ローレン アユミ シバイトン（ホノルル福島県人会）

・私も福島に来る前は福島に関して詳しくはなかったのですが、実際に県内を色々周ってみたら、各地域の特徴や名産について色々学ぶ事が出来ました。

・来県する前から私のルーツは福島にあるという事は知っていたのですが、実際に来て福島県の文化を体験し、色々な方にお会いしてみて、私と福島との繋がりはもっと強くなったと思います。

・風評被害対策のひとつの提案として、除染情報プラザを訪れた際に色々な除染に関する情報がありましたが、その情報が海外に伝わっているのか？海外からアクセスできるのか？等、簡単にそのような情報を海外の人が手に入れる事が出来ればもっと風評が少なくなるのではないかと思います。

・それから、口コミにはなりますが、私が帰ったら友達や家族に福島で学んだ事を伝えれば良いと思います。実際、従妹と最近福島の話をしていたら行ってみたいという返事が返ってきました。それから、Facebook や SNS 等の情報発信の取り組みをしているかもしれませんが、もし情報発信をしていなければもっと頻繁にした方が良いでしょう。



⑤ ケシャ ミカ テラニシ（ホノルル福島県人会）

・私も福島に来る前、友達や家族に色々言われました。やはり震災当時の情報が印象に残っていますし、放射能や食べ物物の安全性について凄く怯えている人がいまだにたくさんいます。しかし、実際福島に来て全然そういった状況ではなく、安全に県民が普通の生活を送っていると確かめる事が出来ました。

・ハワイに帰ったら福島は大丈夫だという事を伝えたいと思っています。



議題以外にも、『英語教師をしている従姉妹と、英語と日本語を学ぶ上でのお互い勉強方法や、言葉のニュアンスについて話が出来たことがとても良かった。』、『ホームステイをした時、親戚が近所の人達と家の周りの掃除をしており、私達にとっては考えられない事なのでとても良い事だと思った。』等、ホームステイでの感想もあった。